

第2回 Grant Thornton オープンセミナー 開催報告

「リスクマネジメントの現状と課題」

ASGグループでは、2004年10月5日 経団連会館において「リスクマネジメントの現状と課題」をテーマに第2回 Grant Thornton オープンセミナーを開催いたしました。

今年はスピーカーに米国グラント・ソントン CEO エドワード・ナスバーム氏、国広綜合法律事務所國廣正弁護士の2名を迎え、日米それぞれの立場からコンプライアンス、内部統制、リスクマネジメントに対する考え方・取り組み方など、実例を交えて講演していただきました。



当日は朝からの大雨にもかかわらず、セミナーへは219名の参加、その後開催のレセプションにも100名以上の参加をいただき、コミュニケーションの場としてお客様に楽しんでいただきました。多数のご参加ありがとうございました。次回もご期待ください。

開催概要

<日時・会場>	2004年10月5日(火) 15:00~ 経団連会館 11F 国際会議場 ゴールデンルーム
<プログラム>	
15:00~16:30	「米国におけるリスクマネジメントの現状と課題」 (同時通訳) 講師：エドワード・ナスバーム 米国グラント・ソントン CEO 兼 エグゼクティブ・パートナー
16:30~16:45	休憩
16:45~18:00	「日本におけるリスクマネジメントの現状と課題」 講師：國廣 正 国広綜合法律事務所 弁護士
18:15~20:00	レセプション 経団連会館 12F ダイヤモンド・ルーム

プロローグ

最近、日本でも急速に関心が高まってきたリスクマネジメント。高い関心の一方で、実施面の出遅れが顕著です。この講演で紹介された事例を見る限りでは、リスクマネジメントに関する問題について、日米の時差はほとんどないことが分かります。実務面での早急な本格的対処が間違いなく求められています。特に、リスクマネジメントでは、まずトップ自らがコミットし、企業の理念に基づく企業の「基準価値」を明確に設定することです。価値基準は、経営理念を具体化させたものです。経営戦略とリスクマネジメントを一体化させることにより、最大の効果が得られる、企業収益の源泉となるべきものです。トップはあらゆる機会を捉えて、繰り返し従業員にメッセージを送ることが不可欠であり、最も有効とされます。

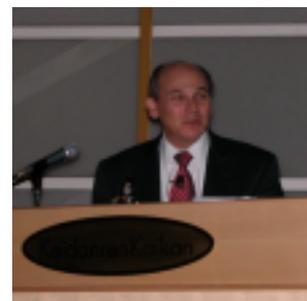
講演要旨

「米国におけるリスクマネジメントの現状と課題」

講師：エドワード・ナスバーム氏 米国グラント・ソントン CEO 兼 IGA ケイブ・パートナー

リスクマネジメントとは何か？

- リスク： 結果の不確実性。われわれはビジネスでいつもこれを減らしたい、なくしたいと考えている。
- マネジメント： リスク評価とそれに伴う諸工程。リスクを減らすという考え方に基づいている。
- 事業運営上のリスクマネジメント（ERM）：リスクの査定と対応に関する全社会的体制で新しい概念である。発生する前に対応をする考え方が重要。さらに、マスコミへの対応体制を考える必要がある。



トップの姿勢（tone at the top）

トップの姿勢（Tone at the top）は、最近、米国でよく使われる言葉である。CEO だけでなく、すべての管理職に求められる。社外取締役が必要であり、社外の目で評価することが重要。社外取締役は、マネジメントに責任を求めることができる。



全社を正しく方向づける必要があるため、トップは、企業の価値基準と結びつけて従業員と話すことが重要。戦略と一貫性があること、従業員と話すときは企業の価値基準にそっていることが大切である。まず、明確に定義している価値基準をもつことが不可欠。それを、定期的に、かつ繰り返し繰り返し、すべての従業員に伝達すること。従業員すべてが、自分たちが行なう活動が、経営トップや企業が望みどおりのことを理解し、実現していると感じることが重要。

「日本におけるリスクマネジメントの現状と課題」～コンプライアンスの概念によるリスク管理の必要性～

講師：國廣 正氏 国広総合法律事務所 弁護士

リスク管理には「リスクのマネジメント（危機の予防）」と「クライシスのマネジメント（危機からの脱出）」があると考える。

リスクマネジメント（危機の予防）では「コンプライアンス体制」の構築が必要

- 1．トップの意識（決意表明）の重要性
- 2．コンプライアンス部門およびトップへの情報伝達体制の確立（自浄作用システム）
- 3．コンプライアンス部門（法務、監査部門）の強化と独立性確保
- 4．改善メカニズムを備えることの必要性

クライシスマネジメント（危機からの脱出）には「危機管理広報」の体制が必要

非常時危機管理における実務上の留意点は以下のとおり。

- 1．正確な情報把握
- 2．情報の適時、適正開示
- 3．行動の一貫性（企業としての価値基準、理念の必要性）

- 「不祥事」という言葉、「世間をお騒がせ」という謝り方が見られるが、今や「法化された社会」であり、社会の変化に応じたリスク管理の必要性をとらえなければならない。
- 必ず出てくる「あってはならないことが起こった」という釈明は、リスク認識の必要性を意識していなかったという問題である。「あってはならない」という意識からは「隠蔽」が起こり易く、これが致命傷になる事例が多数ある。



出席者プロフィール

クライアント・関係先	103	今年は、ASG グループクライアント・関係先以外にも多数の大手一般企業の方の参加がありました。参加者のほとんどが、経営企画部 コンプライアンス リスク管理 法務 監査などに携わっているトップの方々です。改めてリスクマネジメントというテーマへの関心の高さを伺うことができます。
一般 (DM・Web)	116	
合計	219	

アンケート集計結果

ご参加いただいた 219 名を対象に今回の開催テーマ「リスクマネジメントの現状と課題」に関するアンケートを実施しました。集計結果を掲載いたします。(回答：152名)
ご協力、ありがとうございました。

1. テーマについて

テーマと公演内容は整合性があった	139
かならずしも整合性はなかった	3
無回答	10

2. 今回のテーマまたは類似のテーマのセミナーに

初めて参加した	82
2 回目である	34
3 回以上参加している	31
無回答	5

3. 現在、貴社ではリスクマネジメントについて

すでに実施している	1～2年前から	26	74
	3～5年前から	28	
	6年以上前から	4	
	無回答	16	
実施する準備をしている			25
実施を検討している			29
実施の予定はない			4
無回答			14
その他	内用無記入	2	6

その他

- 実施しているが不十分
- 体制整備の一環で是非実施したい

4. 今回のセミナーは

非常に参考になった	98
少し参考のなった	49
参考にならなかった	1
無回答	4

5. 参考になった部分は

米国の現状について	33		
日本の現状について	81		
今後貴社がとるべき施策について	29		
リスクマネジメントの重要性について	87		
無回答	7		
その他	内用無記入	1	1

その他

- 但しアメリカばかりを見て判断するのは違うように思う。世の中すぐにアメリカをまねる傾向が多すぎると思う。

6. 日本におけるリスクマネジメントに関して今後の重要課題は何だとお考えになりますか？

全社・グループ各社の役員・社員のリスクに対する意識	75
経営者のリスクマネジメントに対する理解とリーダーシップ	86
リスクマネジメントのための人材育成	41
行動ルールの整備・社員への周知	35
内部統制の整備	60
会社・グループ内部の円滑な情報伝達	27
無回答	4
その他	3

その他

- 内部告発（社内・社外取引先との SAFE LIMi 設置など）。
- 会社の価値基準との整合が重要であること。
- Risk Management と Compensation System の整合性

7. 今後セミナーで取り上げるべきとお考えになる課題があれば、お聞かせください。

- コーポレートガバナンス、米国企業法 404 号
- 事例研究
- 個人情報保護
- 法令などに関する事
- 国際課税、M&A

- 国際会計基準（ 日本基準 米国基準）
- 企業情報開示のあり方
- 商法の現代化
- 企業会計基準委員会の動向
- 店頭公開への実体験発表
- 事業継承の課題
- リスクマネジメントの具体性を詳細に実施
- 本日のテーマを経営者向けに実践形式で開催して欲しい
- 内部統制の具体的な話をお願いしたい。（設計・文書化・評価・改善・モニタリング他）
- リスクの発見について具体的にどうすればよいのか（費用とのバランスをどう考えるか）
- リスク管理における人の教育は具体的にどう取り組むのか（心の問題）
- 欧州の動きについても知りたい
- 米国 - 欧州 - 日本でのパネル形式による掘り下げが出来れば自社の問題として解決を考える場合に大きなヒントが得られるように思うが...
- 内部統制と社員・取締役制度
- 内部統制に関するセミナー
- CRS について（4件）

本セミナーに関する問合せ

本セミナーは終了しました。本セミナーの資料送付希望、またはご質問等ございましたら、下記までお問合せください。

ASGグループ マーケティングコミュニケーション 田代知子

TEL: 03-3595-0304

e-mail: asgMC@gtjapan.com